

令和7年度病虫害発生予察情報 注意報第3号

令和7年6月27日
岩手県病虫害防除所

ネギハモグリバエ、ネギアザミウマが広く見られています。 圃場をよく観察し、直ちに防除しましょう。

- 1 対象作物、病虫害 : ねぎ、ネギハモグリバエ・ネギアザミウマ
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生時期（感染時期） : -
- 4 発生量 : 多
- 5 予報の根拠

- (1) ネギハモグリバエは、6月下旬の巡回調査では発生圃場率及び被害程度「中以上」の圃場率は、いずれも平年より高かった（図1）。また、ほとんどの調査圃場の外葉でバイオタイプBによる加害が確認された。
- (2) ネギアザミウマは、6月下旬の巡回調査において被害程度「中以上」の圃場率が平年より高かった（図2）。
- (3) 1か月予報（6月19日、仙台管区气象台発表）では、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、今後の多発が懸念される。

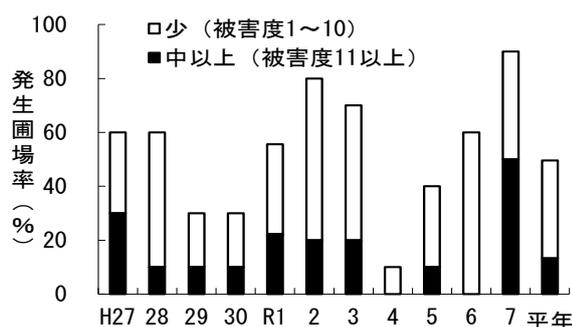


図1 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次別推移（6月下旬）

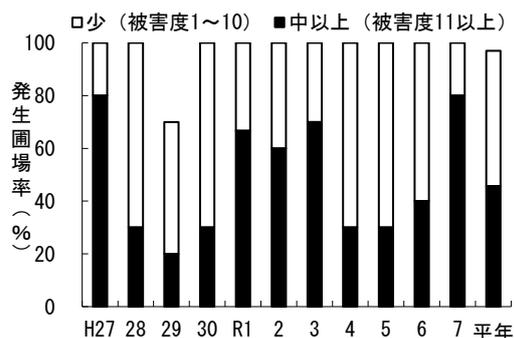


図2 ネギアザミウマの発生圃場率の年次別推移（6月下旬）

6 被害の特徴

【ネギハモグリバエ】

- (1) 幼虫が葉肉内に潜って移動しながら食害し、葉に白いすじ状の食害痕が生じる。多発すると葉の大部分が真っ白になり、生育が著しく妨げられる（図3）。またバイオタイプBは、1葉あたり多数の幼虫が集中的に加害するため、被害が大きいと葉が白化に加え、外葉が枯死する。

（参考：令和2年度病虫害防除技術情報「ネギハモグリバエB系統の被害の特徴」）

【ネギアザミウマ】

- (1) 吸汁により白いかすり状の斑紋を生じる（図4）。
- (2) 多発すると株全体が白っぽくなり、放置すると下位葉や中位葉が枯死する。



図3 ネギハモグリバエによる舐食痕（左）および被害（右）



図4 ネギアザミウマによる被害葉

7 防除対策

【共通事項】

- (1) 被害が見られる圃場では、効果のある薬剤で直ちに防除する。
- (2) 茎葉散布は散布ムラが生じないように畝の両側から丁寧に行う。
- (3) 発生源となる被害残渣や雑草等を圃場から持ち出して処分する。

【ネギハモグリバエ】

- (1) 多発後の防除は困難なことから、発生初期から防除する。
- (2) 被害が見られたら、ベネビアODやグレーシア乳剤で防除する。

【ネギアザミウマ】

- (1) 被害が目立つ場合、トクチオン乳剤、ベネビアOD、グレーシア乳剤、ディアナSC、ファインセーブフロアブルのいずれかの薬剤で防除する。
- (2) 夏どり作型では、収穫30日前頃から効果の高い剤を7～10日間隔で散布し、ねぎの品質低下を防ぐ。また秋冬どり作型では、定期的に防除を行い、密度の低下を図る。
- (3) 高温条件下では世代の経過が早いため(25℃では16～17日程度で1世代経過)、散布間隔が空かないように散布する。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行う。

～農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)～

【利用上の注意】

本資料は、令和7年6月25日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は(1) 使用基準の遵守(2) 飛散防止(3) 防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

